

中山隧道

中山隧道は長さ 877 メートルで、手掘りによる日本最長のトンネルです。危険な 4 キロメートルある峠道の代替手段として、1933 年から 1949 年にかけて小松倉地区の住民によって建設されました。小松倉には雑貨店や病院がなく、峠道は近隣の広神村と小出（いずれも現魚沼市）に行くために使われていました。峠越えの条件が悪かったときは、村民は緊急の治療や多くの日用品へのアクセスを失いました。このような困難と、峠越えでの事故などを受け、トンネル建設に拍車がかかりました。ほぼ 50 年にわたり、隧道は小松倉から近隣の村へのより安全なルートとしての役割を果たしました。1998 年、現代の車両通行のために新中山トンネルが完成し、隧道は複数の陥没や落石による危険があったため通行止めになりました。

今日の隧道

現在、中山隧道は安全上入り口から 70 メートル先の進入は禁止されていますが、見学可能な区間は当時の雰囲気ほとんど残っています。この区域の安全性と視認性を向上させるために、大きな鉄骨フレーム、崩落防止の金網、より良い照明などが近頃設置されました。入り口の看板には、隧道に関する情報、その年表、アーカイブ写真、そして全国の他の手掘りトンネルの情報が掲示されています。日本の土木学会は中山隧道を国の土木遺産の貴重な例としています。

隧道を保存するためのドキュメンタリー映画撮影

2003 年に公開された中山隧道を題材にしたドキュメンタリー映画「掘るまいか」のポスターが、入り口のトンネルを掘った人々の古い写真の隣に掲示されています。映画の製作は、隧道の歴史的な重要性の認識を広め、トンネルの取り壊しを防ぐことを目的として、小松倉の住民からの寄付金をもとに 1998 年に始まりました。ストーリーを伝えるため、そして撮影に活用するため、壁 2 か所に短いサイドトンネルが掘られました。入口にから近い方は、馬車や車両の通行用に拡張される前の、元の隧道の様子が見て取れます。その内部には、掘削した土砂や石を搬出する際に使われた木製のトロツコのレプリカの 하나가展示されています。

動画ウォークスルー

訪問者が通れるのは隧道の一部のみですが、残りの部分は、入り口近くの看板の 1 つにある QR コードからアクセスできるビデオツアーで見ることができます。例えば動画では、徒歩で移動する人たちが車両に道を譲れるよう、横幅が拡張された短い区間も確認できます。また、狭い空間の中で荒く削られた壁にぶつかる車の痕跡も数多く映っています。